

## 令和7年第2回(3月)市議会定例会本会議報告について

教育総務課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>【代表質問】 一志会 代表 【川嶋敬信議員】 ●市の重要な政策や問題について ○施政方針にある教育環境の整備や学力向上の取り組みの具体的な内容は ①教育環境の整備について</p> <p>②学力向上への取り組みについて</p>	<p>【教育長】 児童生徒が自ら学び自ら考える力を育成するためには、安全で快適な教育環境の整備が大切になる。 施設・設備の整備では、児童数の増加に伴い、普通教室の不足が見込まれた五加小学校の教室棟の増築を実施、各校の特別教室への空調設備の導入、教育の情報化に対応した ICT 環境の整備や校務 DX を推進している。 ソフト面としては、児童生徒への支援（人的配置）として、特別な教育ニーズを持つ児童生徒への適切な支援を行うため、特別支援教育支援員を配置、児童生徒の学力向上につなげるため、学校における多様な教育課題に対応したきめ細やかな支援を行うため、教育課題支援講師などを配置している。また、本来の教育活動に専念できる環境を整備するため、更なる教職員の働き方改革も推進していく。</p> <p>小中学校で引き続き「全国学力学習状況調査」と「小中学校総合学力調査」を実施し、学力や学習の状況を把握することで、日々の授業改善や教育課程の改善を行い、かつ、GIGA スクール構想 1 人 1 台端末を日常的に活用し、児童生徒の主体的に学ぶ力を育成するため、小中学校向け学習ドリルソフトを導入するなどして、学力向上を図っていく。</p>

**【再質問】**

上山田小・治田小の施設がかなり傷んでいる。来年度予算に計上されていないが、今後どのように考えていくのか。

千曲市での段階的な小中学校の給食費無償化は、国や他市の動向を見ているということか。

日本共産党千曲議団 代表

**【前田きみ子議員】**

●子育て支援について

○窮屈な環境ではなく、子どもが主人公で真ん中に置く教育が望まれるがいかがか

**【再質問】**

支援が必要な児童が式典などで長時間座っていることがつら

**【教育長】**

緊急度の高い箇所については、修繕で対応している。大規模改修については、個別施設計画により推進していくが、まずは耐力度調査を行い、その結果により判断することになる。

**【市長】**

明確な時期は明言できないが、段階的な無償化は考えている。国からの財源の手当てが期待できるような報道もあるので、注視しながらできるだけ早期に段階的に着手していきたい。現在、困窮世帯には就学援助費で事実上無償化している。

保育・教育の環境整備には事業費もかかるので、ハード・ソフト双方の関係も踏まえながらできるだけことは対応していきたいと考えている。

**【教育長】**

各小中学校では、支援を要する児童生徒について、一人一人「個別の教育支援計画・個別の指導計画シート」を作成し、支援・指導を進めている。このシートの作成にあたっては、学級担任・特別支援教育コーディネーター等の学校関係者はもちろん、その子どもに関わる教育相談員・医療・福祉等の関係者も交えて検討され、その子どもはどんな個性があり、どんなことが課題なのかを理解し、その子どもにあった必要な支援・指導はどんなことなのか、実際の生活場面・学習場面に即して、具体的な支援・指導計画が立てられている。そして、保護者・子どもとも共有し、目指す姿の具現に向けて、日々取り組んでいる。

これからも一人一人の子どもが、その子らしく成長していけるような取組を推進していく。

**【教育長】**

もう少し自由にとのご発言ですが、その児童に今どのような力を付ければよいのか、その時々で大勢の中

く、席を離れた際に強制的に席の戻すような学校であって欲しくないという願いで問いかけたものである。もう少し自由に、その場に居させる必要はないと思うがいかがか。また、先ほどの答弁の中にシートを作成するとあったが、紙に書くということに重点が置かれてしまうのではないかという心配があるがいかがか。

○治田小学校区にはゾーン 30 がなく、保護者が登校の見守りをしている。安心安全な通学路の整備を早急に行う必要があると考えるがいかがか

公明党 代表

【柳澤眞由美議員】

●令和 7 年度新規事業について  
○不登校対策支援事業フリースクールに通う児童生徒への支援の概要を伺う

の雰囲気を感じてほしいということを狙いとして持っていたとしたら、飛び出したらそこに連れ戻すことはあるが、式典などの行事で長時間座っている場面では、当然配慮をしている。

次に、シートの作成については、やはり個別の教育支援計画・個別の指導計画シートを作成して、総合的にその子を見ていくことが大切になる。関係者が集まってこの子にとっての一番良い支援・指導はどうあるべきか、まずはペーパーを作成して、その子を見ながら常に修正をしながらシートを作成していくということが前提になっているので、計画・シートを作成して支援・指導を進めて行くようになる。

【教育長】

児童生徒が安心・安全に登下校できるよう、各学校で交通安全教育に取り組むとともに、保護者や地域の方のご協力により、見守り活動を行っていただいているところである。また、各小学校で把握している通学路の危険個所については、毎年 6 月に道路管理者や警察、学校等の関係機関が集まって合同点検を行い、具体的な改善策を検討し、可能な個所から対策を講じている。

「ゾーン 30」については、地元住民の要望を受けて、千曲警察署が指定を行うが、交通規制等が生じるので住民の合意が必須となる。

通学路の安全対策については、各地区から地域要望としても多くご意見をいただいているので、引き続き関係部署・関係機関と連携し、優先順位をつけながら必要な対策を進めていく。

【市長】

何らかの心理的、情緒的、身体的若しくは社会的要因や背景により、登校しない又はしたくともできない状況にある児童生徒が、多様な学びの場へ通うことを支援し、当該児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図

るため、令和 6 年度から長野県が開始した「信州型フリースクール認証制度」により、認証を受けたフリースクール等の利用者負担の一部を助成する制度を創設し、令和 7 年度より「千曲市フリースクール等利用者補助金」を交付する。

補助対象者は、市内に住所を有し、原則として在籍校の課業時間にフリースクール等に通っている児童生徒の保護者で、補助対象経費は、保護者が負担した利用料で入会金、教材費、交通費等は除く。補助金額と補助率は、各月分の補助対象経費の合算額で、就学援助を受けている保護者の補助率は「100 分の 100」、それ以外の保護者は「100 分の 50」で、1 月当たりの上限金額は 10,000 円となる。補助金の申請は年 2 回に分けて受け付けを行い、4 月から 9 月までの利用料に係る申請は 10 月 31 日まで、10 月から 3 月までの利用料に係る申請は次年度の 4 月 10 日まで受け付けを行う。

詳細はホームページに掲載するとともに、学校やフリースクール等の事業者を通して、対象者に情報が届くよう周知していく。

○「空調設備整備臨時交付金」活用で学校体育館空調の整備を

#### 【市長】

国における令和 6 年度補正予算に係る空調設備整備特例交付金事業については、市としても把握しており、空調整備時に必須事項である断熱性確保の工事については、空調の設置年度とは異なる年度に実施が可能であること、建物の実情に応じた工法による断熱性の確保など特例交付金の優位性についても承知している。

しかしながら、市内の学校施設については、建築年度の経過により長寿命化改修等を行う時期に来ているものの、財政負担が著しく集中するため、個別施設計画の見直しが必要となっている状況である。

昨年の 6 月定例会で、議員より学校施設についてのご質問をいただいたが、その際に答弁したとおり建築年度が経過している学校についての整備計画を最優先として、個別施設計画により耐力度調査を実施し、それに基づく改修計画の中で、体育館の空調整備についても実施するべきと考えている。

**【再質問】**

交付金の対象期間が令和 15 年までなので、そこまでに 13 校の整備を進めてほしい。

○1 人 1 台端末の更新計画及び廃棄の対応は

**【再質問】**

小中学校の端末更新は同時にはできないか。また、廃棄の際の個人情報の取扱いについても一度考えをお聞きする。

**【個人質問】**

**【早志圭司議員】**

●「こどもまんなか宣言」とこど

**【市長】**

交付金の対象期間内にどのように進めるか、庁内で計画などの見直しも含め、取り組んでいく。

**【市長】**

当市では、令和 3 年度に 4,532 台の 1 人 1 台端末を導入しており、使用開始から 5 年間を経過した令和 8 年度以降の更新を計画している。

現在の端末を最大限活用し、また、調達する端末数の平準化のため、令和 8 年度中に中学校、令和 9 年度中に小学校の端末を更新する計画であり、令和 7 年度に県の端末共同調達会議に参加し、調達端末と事業者を検討する。

更新に伴う端末の廃棄については、令和 5 年 10 月 26 日文科科学省通知「GIGA スクール構想の下で整備された 1 人 1 台端末等の適切な処分（再使用又は再資源化）等について」に従い、小型家電リサイクル法に基づいて経済産業省・環境省から大臣認定を受けた事業者への廃棄処理委託を検討していく。認定を受けた事業者は、国が示す認定基準等に基づき解体・破碎・選別等による再資源化技術を有しており、加えて回収から再資源化に至るまで情報漏洩対策を講じている。通常、廃棄処理委託は有償となるが、千曲市では、現在導入している Chromebook を今後も継続して調達する予定であり、Chromebook を採用することでグーグル社による無償での端末廃棄が可能となる見込みである。

**【教育部長】**

調達する端末の購入費用、台数の確保もあるので、平準化により対応していく。廃棄については、文科省通知に従い、情報漏えいがないよう大臣認定を受けた事業者へ委託をする。当市としてはグーグル社による無償での端末廃棄を予定している。

もに対する施策と整合性について

○戸倉上山田中学校の通学路について、見通しが悪く事故が心配される交差点が多々あり、道路標示がない、薄れているところも多々ある。早急に調査・対策をとるべきでは

【田中秀樹議員】

●子どもの育ちと学びについて

○本年度の取り組み及びジャンプ期の GIGA スクール構想の展開や目標について伺う

①本年度の取り組みについて

【教育部長】

先日行われた戸倉上山田中学校のコミュニティスクールでご指摘のあった、見通しが悪く、出会い頭事故が心配される交差点の箇所については、学校から報告を受けており、担当課とも内容を共有したところである。ご指摘の箇所は既に停止指導線や一部にはミラーも設置されており、対応とすれば注意喚起看板を設置することが考えられる。看板につきましては地元区からの要望により看板を現物支給し、地元区で設置を行っていただいているので、地元区長と情報を共有し、対応を検討していく。

昨年 4 月にご指摘のあった停止指導線が薄くなっている箇所については、塗り直しが終了したところである。

引き続き、学校での交通安全教育を実施するとともに、必要な安全対策を進めていく。

【教育部長】

本年度は、県教委から派遣された企画主査（現職教員）の後任として、情報教育担当の専門主事を配置して、GIGA スクール構想を着実に推進してきた。

教職員向けの研修会として、新任者研修、オンライン研修、夏季研修、学校訪問研修など、これまでと同様に実施し、のべ 500 名以上の参加者があった。1 人 1 台端末の利活用は、各校の推進委員などが中心となって進めている。

一例としては、GIGA スクール推進委員会研究協力校の更埴西中学校では全学級で端末を使った授業を公開できるほど、活用は日常化している。また、今年度の「GIGA スクール構想の下での校務 DX チェックリスト」に基づく自己点検調査では、学校の回答結果が県内で

もトップレベル（県内 19 市ではトップ、全市町村ではベスト 3）となり、働き方改革のための校務 DX が一段と進んでいるところである。

②ジャンプ期の GIGA スクール構想の展開や目標は

5 年計画最終年度のジャンプ期では、より協働で学び合うツールとしての活用を目標としている。授業の具体的なイメージとしては、「課題に対して、3、4 人のグループで話し合い、それぞれの端末を使いながらみんなですべての発表資料を作成する。道徳などの授業で一覧表に各自が考えを入力し、全員の考えを一覧で読める環境で、他の児童生徒の考えを参照しながら、自分の考えを深める授業」である。

このような授業がどの学級でも実現できるよう、先生方のニーズに合った研修会や学校支援を行っていく。

現在、全国的に 1 人 1 台端末の更新が行われており、それに合わせて「ネットワーク整備」や「校務 DX」、「1 人 1 台端末の利活用」等を今後推進していく必要がある。

本市の推進にあたっては、これまでも信州大学教育学部教授よりご指導を受けているので、全国の動向を注視しながら、信州大学教育学部と連携し、次期取組を推進していきたいと考えている。

#### 【再質問】

以前、教育長がおっしゃっておられた主体的な学びに関わる「学び方を学ぶ」、「自ら学ぶ力を高める」についてはどのように進めてきたか。また、校務 DX を通じた教職員の働き方改革はどのように進めてきたか。

#### 【教育長】

ICT に関しては、一例ではあるが「単元内自由進度学習」で子ども達が自分の興味関心や課題・問題意識について、自分のペースで取り組む学習スタイル。これを行っている学校がある。その中で子ども達は自分のペースに合った学習を進めて行くために、ICT 機器を使って資料を見つけたり、或いは問いを解いたりしながら、自分の課題に向かって取り組んでいる。その中で、自分で学ぶ楽しさや喜び、同じ課題を隣同士で学び、相談しながら学習している姿が今年度出てきた。これまでの一斉授業から子ども達が自分の問題に向かって自分のペースで学んでいく、まさに自分の学び方を学んでいくといった取り組みがなされている。

**【教育部長】**

校務DXについては、ICTに苦戦されている先生もまだおられるので、そういった先生方へのフォローやスキルが身につけられるよう研修を工夫していく。また、今後も先生方の負担軽減につながる校務DXを推進していく。

○ふるさと学習の充実について

①全国学力学習状況調査の結果が、ふるさと学習の成果といえるか

**【教育長】**

今年度実施された全国学調の児童生徒質問紙調査では「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」について、千曲市の児童生徒は、小中学生とも全国・長野県を上回る結果でした。

これは、各小中学校の総合的な学習の時間を中心に、ふるさと学習が展開され、自分の住む地域に関心が高まり、地域について深く学ぶことを通して、よりよい地域社会にしていこうとする力が育ってきている結果ではと考えており、ふるさと学習の大きな成果ととらえている。

②ふるさと学習の課題は

課題の一つ目は「学習時間の確保」である。子ども達が地域に出向き、そこから課題を見つけ、その課題を探究し、まとめ・発信していく学習展開は、子ども達の学びが深まり広がるほど多くの時間の確保が必要となる。各小中学校の総合的な学習の時間の時間数も限られていることから、どう時間を確保していくか、他の教科・領域とどう横断的に展開できるか課題である。

課題の二つ目は、先生方の「教材研究の時間の確保」である。ふるさと学習を進めるためには、まず、先生方が地域のことを知らなければなりません。そして、子ども達の住む地域がどういう地域なのか、どういう課題があるのか、どのように学習を展開していくことができるのかなど、先生方が十分構想を練る時間が必要となる。また、地域の方との打ち合わせをはじめ、学校の外に出る場合は、安全確保等の計画作成も必要となり、時間が必要となる。先生方のこのような時間をどう確保していくのか課題である。

③今後の取り組みは

今後もすべての小中学校で「ふるさと学習の充実」を図ってまいりたいと考えている。

子ども達が自分の住む地域に目を向け、地域の自然・文化・歴史に触れ、そこから課題を見つけ、探究し、その成果を発信し、地域の豊かな自然・歴史・文化を未来に継ぐ意識・態度を育てたいと考えており、それが千曲市全体を愛することにつながっていくと考えている。様々な課題はあるが、各学校で知恵を絞り研究していただき、「ふるさと学習」を中核に据えた学校づくりが進むよう、校長会を通してお願いしていく。

○不登校対策について、施政方針にある「市内小中学校の不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援」とはどのようなものか

【教育長】

「不登校児童生徒への支援の在り方について（令和元年10月25日文科省通知）」に示されているように、不登校児童生徒への支援においては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うことが重要と考えている。

社会的自立とは、関わる人たちとの関係性を保ちながら、自らの意志と判断で主体的に社会に参画していくことができるようになること。また、依存しないことや支援を受けないということではなく、適切に他者に依存したり、自らが必要な支援を求めたりしながら、社会の中で自己実現していくことと捉えている。

千曲市では、各学校において、個々の児童生徒に寄り添い、不登校になったきっかけや継続理由を的確に把握するとともに、その児童生徒に合った支援策を策定するために、学校職員のみならず、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカー、市の教育相談員等の専門職を含めたチーム学校として対応できるよう指導助言をしている。また、児童生徒の個々の状況に寄り添いながら支援できるように、市内5か所に教育支援センターを設置するとともに、フリースクールなど民間施設と連携した支援、ICTを活用した学習支援等を行っている。加えて、家庭を居場所とする児童生徒に対して、チャイルドサポーターが訪問型支援を行い、保護者への支援も行っている。

今後とも、不登校児童生徒が将来、精神的にも経済

的にも自立し、豊かな人生を送れるような社会的な自立を果たすことにつながるような支援を心がけていく。

**【再質問】**

不登校児童生徒のうち、教育支援センターやフリースクール、チャイルドサポーターを利用していない児童生徒への支援は。

**【聖澤多貴雄議員】**

●教育問題点として

○高校再編・千曲市に高校2校維持、存続について

①行政側からの視点の維持、存続の重要性について考えを伺う

**【教育長】**

それぞれの児童生徒の状況により、学校（担任）、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、チャイルドサポーターなどが、複数の児童生徒に関わっている。

全ての不登校児童生徒に何らかのコンタクトを取り支援をしている。

**【教育長】**

地域から高校がなくなると、地域の活力が失われてしまうため、行政にとっても深刻な問題であると認識している。現在、屋代南高校の生徒のうち6割から7割程度が市外から通学しているため、高校がなくなると、関係人口の減少につながり、屋代南高校の最寄り駅である屋代駅前周辺や商店街、高校周辺の賑わいが減ってしまい、地域経済の脆弱化が懸念される。また、高校は地域コミュニティの核であり、地域住民との交流の場でもある。毎年、屋代南高校の生徒と屋代駅前商店街とが連携して、屋代駅前のイルミネーションの飾り付けを行ったり、高齢者向けの「楽しくねまき」を手縫いで制作し、市内の高齢者施設に寄贈していただくなど、地域に結び付く活動も行っている。

以上申し上げたとおり、高校の存在は地域の活力や経済基盤に直結しているため、市内2校の維持・存続は行政から見た「まちづくり」にとっても重要かつ必要不可欠と考えている。

②生徒の進路先として、屋代南高校の維持、存続についての所見は

千曲市に高校2校維持・存続につきましては、何としても維持・存続させたいと考えている。

ご承知のように、屋代南高校は、創立100年を超える県下でも歴史ある伝統校であり、数多くの人材を輩

出し、千曲市内でもたくさんの方が活躍されている。

また、特色あるライフデザイン科は、介護寝間着を考案制作し寄付を行ったり、全国大会でも素晴らしい賞をいただいたり、大きな成果を挙げてきている。そして生徒会が中心となり、地域の行事やボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。今後も子ども達にとって、交通の便もよく通いやすく、素晴らしい教育を展開されている屋代南高校の校地に、新校を開設し、市内高校 2 校の維持・存続を再編実施計画懇話会でも訴えていく。

③主権者教育の観点からも、児童・生徒に対しての授業の題材にできないか

現在、中学校 3 年生の社会科公民的分野に「地方自治」に関するところがあり、その中で地域の課題について考えあうことを通して、一人の主権者として、また、地域住民の一人としての自覚を育て、地域づくりに主体的にかかわっていく態度を育てる学習がある。また、小中学校で主に総合的な学習の時間で行われている「ふるさと学習」は、自分たちの住んでいる身近な地域に目を向け、課題をつくり、追究し、発信していく学習となっている。各学校では、すでにカリキュラムが組まれているので、今後このような学習の中で題材として扱っていただけるかどうか、各学校で研究していただくよう校長会を通してお願いしていきたいと考えている。

④稲荷山養護学校との関係性を含めた考えを伺う

ご承知のように、稲荷山養護学校高等部更級分教室は、現在、更級農業高等学校の校舎を利用し、「社会自律を目指し、働く力と心豊かによりよく生きる力を身に付ける」ことを目指し、稲荷山養護学校高等部の生徒が学んでいる。

障がいのある子ども達の社会的自立、職業的自立は大変重要なことであり、社会全体で支えていかなければならないことですので、懇話会の議論の中でも、稲荷山養護学校高等部更級分教室の継続は強く要望していきたいと考えている。

【再質問】

「豊かな学びを育むか会」を中

【市長】

高校再編計画の中では、屋代南高校という名前の高

心に行っている2校維持・存続の署名活動の陣頭指揮をとっていただいた市長から一言いただきたい。

○こども・教育部の組織改編について「おはなし給食」はいかがか

①組織改編に至った考えは

②組織改編について、保育・学校現場への説明、意思疎通をどのように図っていくか

校は無くなることは決定している。そこは市民の皆様に誤解のないようお願いをしたうえで、新校の校地を屋代南高校の場所に配置するという事で、市内2校の維持・存続の署名活動をしている。こどもまんなかという考えからすると、子どもにとって何が最善か、これを高校の問題に置き換えると、この地域の子ども達にとって通学の便の良い場所に学校があるということ。公共交通機関を利用して通いやすいことが非常に大事な事だと思っている。

新校の学びの内容については、懇話会の中でどのような学びが子ども達にとってよいのか議論をしているところであるが、そのような観点から屋代南高校の校地に高校を残すということで、しっかりと取り組んでいく。

#### 【教育長】

施政方針などで申し上げているとおり、「すべてのこどもが幸せに暮らせる千曲市」の実現に向け、こどもに関する組織を一体化し、出生から義務教育までの連携を強化することを目的に、教育委員会に属する教育部の名称を「こども・教育部」に変更し、組織改編を行う。幼少期からトータルで、こどもの育ちと学びを意識した教育、学校教育の知見を活かす視点や、保育所も含めてこどもの発達や学びを確保する意識が醸成され、学校サイドとも共有されるメリットも期待されるなど、いわゆる『小1ギャップの解消』など小学校との円滑な接続のため、幼稚園・保育園・小学校の連携について、組織的にもよりスムーズに取り組むを進めるものと承知をしている。

学校への説明につきましては、校長会や千曲市総合教育センター事業における各種委員会などの場で周知を行い、意思疎通を図ってきている。

公立保育園につきましては、定例の園長会で周知はしたが、幼稚園を含めた私立保育施設は、これから周

知する。

③組織改編を機に読書への関心を持たせるため「図書給食・おはなし給食」を取り入れてはいかか

学校では、現在、給食センターから配布された給食のトピックスを給食の時間に放送して、給食のメニュー・食材について理解を深めているところである。

議員ご提案の「おはなし給食」については、現在、市内小中学校、保育園では行っていないが、食や図書への関心を促進するための手段として有効であると考えられるので、今後の参考にさせていただきたい。

○高等教育機関誘致をふまえ大学まで連携の幅を広げることについての所見を伺う

【教育長】

高等教育機関誘致をふまえて、清泉大学農学部開学後、幼保義務教育連携についても幅を広げていくことは、子どもたちの興味関心を広げるだけでなく生涯学習の拡充にも十分、期待できうるものと考えている。

これまでも、一例ではあるが、キャリア教育にもつながる出前講座を提案していただいております、千曲市の教育のひとつの特徴になりうるものと考えている。

こうした提案、連携は千曲市の子どもたちにとって、自分たちの住む地域、社会を改めて学び、認識し、子どもたちの成長に非常に有用であり、『高等教育機関と地域との共学共創』の視点からも意義があるものと認識をしているので、今後、情報交換を進めていきたい。

【中村恒彦議員】

●「こどもまんまか」について

○通学路の安全対策について

①通学路に関する安全要望等に  
応えられているか

【教育部長】

通学路の安全対策については、地域要望や各学校、個人の方からも多くの要望等をいただいているところではあるが、教育委員会で把握したものについては、所管課と情報を共有し、優先順位をつけて対応が可能なものについては、順次対応しているところである。

ハード面の安全対策については、要望箇所数が多く、全てに対応できている状況ではないが、学校での交通安全教育や地域の方の見守りボランティアといったソフト面の安全対策も実施しながら進めていく。

**【再質問】**

要望箇所が多く予算の中で対応しきれないということは承知しているが、こどもまんなか宣言を出している以上、子どもの安全を考えれば、すべての要望について予算を増額してでも対応すべきではないか。

②道路標示の塗り替えについて、薄くなる前に塗装し直しが必要と思うがどうか

③スクールゾーンやゾーン 30 を追加すべきでは

**【市長】**

通学路の安全対策については、喫緊の課題であると認識しているが、市内全体で通学路に限らず、様々な地域要望に対してバランスの中で対応しているところであるが、できるだけ対応してまいりたい。

**【教育部長】**

道路に標示されている停止線やカラー舗装につきましても、種別により管理者が異なる。停止線や横断歩道など規制が伴う標示については、警察が管理者であり、カラー舗装等の注意喚起を促す標示については道路管理者となる。警察からは年 2 回程度の点検を実施し、消えている箇所については修繕していると聞いている。市においても道路のパトロールなどにより状況の把握に努めている。なお、塗り替え等の維持事業は、国からの交付金制度が無い場合財源確保が難しい状況ではあるが、適時状況を確認し、塗り替えを実施することで、通行者の安全確保に努めていく。

**【教育部長】**

通学路や生活道路の交通安全対策として、スクールゾーンやゾーン 30 といった区域を指定し、速度制限や一方通行、時間帯による車両通行禁止といった規制を設ける方法がある。

「ゾーン 30」については、指定された区域内のすべての道路について、車両等の制限速度を時速 30 キロメートルに規制し、交通事故防止を図るものであり、指定は地元住民の要望を受けて、千曲警察署が行うもので、規制に対する地元住民の合意などが必要となる。住民生活に関わる規制も生じるので、地元の要望等を聞きながら検討していく。

**【副市長】**

通学路の安全対策については、子どもの安全のこと

なので、早急に対応しなければいけないことは当然のことである。

担当課に確認したところ、塗り替えには予算を執行するうえで1回ごと発注すると高上がりとなり業者としても負担であるので、ある程度溜まったところでの発注を原則として実施していると聞いている。

原則は原則として、子どもの安全に繋がるものはやらなければいけない。所管課と学校関係とで連携をとり、危険であれば予算云々のことは言っていないので早急にやるよう指示している。

○中学校の公衆電話について

①公衆電話の撤去について、理解は得られているか

【教育部長】

現在、市内中学校のうち戸倉上山田中学校、更埴西中学校の2校については、学校敷地内にNTTの公衆電話が設置されている。NTT東日本では「終日誰もが利用することができない」公衆電話については、順次撤去していく方針を示しており、2年ほど前、設置されている2校に通知があり、本年3月末に撤去する予定となっている。

教育委員会及び学校としては、電話機設置事業者が経営方針として進めていることであるので、撤去方針を示されていることについては、致し方ないことと考えており、学校においてこの旨の周知を図っているところである。

【再質問】

もう一度、公衆電話を残す交渉はできないか。

【教育部長】

NTTでは、一定の利用が見込めない、終日誰もが利用することができない公衆電話については撤去していくという方針がある。生徒が在校中に緊急に保護者等に連絡を取らなければいけない場面が生じた場合には、学校の電話を使用させるなど臨機応変に対応している。現在、周知しているところではあるが、学校に再度確認、または代替え手段がないか確認したうえで検討していく。

②撤去された場合、必要とする生徒にどう対処するか

【教育部長】

学校では、生徒が在校中に緊急に保護者等に連絡を

取らなければいけない場面が生じた場合には、現在でも学校の電話を使用させるなど臨機応変に対応している。

**【副市長】**

埴生中学校、屋代中学校には公衆電話は設置されていないが、先ほどの学校の電話を利用するなど、特段問題は生じていないと聞いている。

**【宮下繁明議員】**

●千曲市「こどもまんまか」宣言の実現のためには

○こどもまんなか宣言に基づいて教育環境の整備がされているか

①危険な通学路の安全対策がとられているか

**【教育部長】**

前田議員の質問でも答弁したとおり、児童生徒が安心・安全に登下校できるよう、各学校で交通安全教育に取り組むとともに、保護者や地域の方のご協力により、見守り活動を行っていただいているところである。また、各小学校で把握している通学路の危険個所については、毎年6月に道路管理者や警察、学校等の関係機関が集まって合同点検を行い、具体的な改善策を検討し、可能な個所から対策を講じているところである。

通学路の安全対策については、各地区から地域要望としても多くご意見をいただいているので、引き続き関係部署・関係機関と連携し、優先順位をつけながら必要な対策を進めていく。

②グリーンベルト、停止線が消えたままになっている

中村恒彦議員の質問でも答弁したとおり、道路に標示されている停止線やカラー舗装につきましては、種別により管理者が異なる。停止線や横断歩道など規制が伴う標示については、警察が管理者であり、カラー舗装等の注意喚起を促す標示については道路管理者となる。警察からは年2回程度の点検を実施し、消えている箇所については修繕を実施していると聞いている。市においても道路のパトロールなどにより状況の把握に努めている。なお、塗り替え等の維持事業は、

国からの交付金制度が無いいため財源確保が難しい状況ではあるが、適時状況を確認し塗り替えを実施することで、通行者の安全確保に努めていく。

**【再質問】**

危険な通学路の要望箇所の把握できているか。

**【教育部長】**

危険な通学路については、学校を通じて把握しているところであり、そのうえで、合同点検などで確認をしている。

**【再々質問】**

危険な箇所は何か所で、対応はできているか。

**【教育部長】**

令和6年度の把握箇所は13か所で、うち8か所については、ラバーポールやグリーンベルトの設置、ハード的な整備が難しい箇所は安全教育や警察による取り締まりの強化など、何らかの対策を実施済みである。残りの5か所については、道路改良等、整備に時間が必要な箇所となるので、関係部署・県や警察などの関係機関と連携しながら進めていく。

なお、令和3年から令和5年までの3年間では、39か所の点検を行っており、うち34件、率として87%は何らかの対策を実施済みである。

**【再々質問】**

きちんと危険箇所を把握して、新年度になる前の3月中には対応していただきたい。

**【教育部長】**

危険箇所については、これからもしっかりと把握に努めていく。3月中に対応することは難しいが確認をしていく。

③校舎の改築、大規模改修はどの様に進められているか

**【教育部長】**

基本的な方針として「千曲市公共施設個別施設計画（学校施設編）」において維持管理・更新等の対策の内容や実施時期などをまとめた計画により進めている。

しかしながら、計画にも記載してあるが、築40年～50年を超える校舎については、改築、長寿命化改修等を行う時期に来ているものの、財政負担が著しく集中しているため、学校施設の適正規模・適正配置の検討や他の公共施設との複合化・共同化の推進等、教育の質の維持とコストの集中を防ぐ方法を検討したうえで、実状に即した改修計画を検討していく。

○建設から 50 年以上経過した学校施設の改築や大規模改修がなぜ進まないのか

**【教育部長】**

各学校の施設につきましては、学校訪問時や学校からの連絡により状況をお聞きし、児童生徒の学校生活に支障の無いよう保全的な部分的修繕等により対応している。

しかしながら、建設から 50 年以上経過した学校施設においては、経過年数による建物や設備の老朽化等により、不便な部分もあることは議員ご指摘のとおりである。

学校施設の老朽化に伴う校舎の改築や大規模改修計画につきましては、教育委員会としても、まずは耐力度調査を計画的に進めていきたいと考えているが、先程も答弁しましたとおり、築 40 年～50 年を超える校舎については、長寿命化改修等を行う時期に来ているものの、財政負担が著しく集中しているため、学校施設の適正規模・適正配置の検討や他の公共施設との複合化・共同化の推進等、教育の質の維持とコストの集中を防ぐ方法を検討したうえで、改修計画を検討していく。

**【再質問】**

個別施設計画には、上山田小と治田小の耐力度調査が 3 年前から計上されているが、来年度も予算化もされていない。なぜ、3 年間も先延ばしになっているのか。

**【教育部長】**

市教委としても少しでも早く耐力度調査を行って客観的な資料として把握していきたいと思っている。これまでの質問でも公共施設の在り方、検討について指摘があった。そういった部分も含めて個別施設計画の見直しもしているので、学校施設においても施設計画担当部局とも連携確認して対応していく。

**【再々質問】**

将来の投資も大事だが、今ここにいる子ども達の生活を守ることはとても大事なことである。なぜ、3 年も先延ばしになったのか。

**【総務部長】**

学校・保育・文化施設それぞれ大切な施設である。そのような中で市としてはバランスを取りながら予算付けをしている。また、マンパワーも必要などこともある。職員配置も十分ないところもあるが、職員配置についても対応していきたい。

**【市長】**

文化施設も含めて教育委員会には、学校の在り方についても指摘をして指示をしているところである。そ

うした中で、公共施設の全体の在り方も含めて、先送りにできない時期に来ているので、速やかに対応するように改めて教育委員会に申し入れる。

議員ご指摘の現状については、大規模改修しなくても対応できるようなこともあるので、教育委員会から予算要求があれば、対応していく。

**【再々質問】**

市長・副市長には上山田小学校の現状を見に来ていただきたい。

**【市長】**

現場を確認することは当然のことであるので、見に行く。

**【坂口吉一議員】**

●子育て支援について

①フリースクール等利用者支援の内容は

**【教育長】**

柳澤議員の答弁でもお答えしとおり、令和7年度より「千曲市フリースクール等利用者補助金」を交付し、「信州型フリースクール認証制度」により認証を受けたフリースクール等に通う児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図っていく。補助対象経費は、フリースクール等を利用するために保護者が負担した利用料で、補助金額と補助率は、各月分の補助対象経費の合算額で、就学援助を受けている保護者の補助率は「100分の100」、それ以外の保護者は「100分の50」で、1月当たりの上限金額は10,000円となる。

②来年度に取り組む子育て支援・教育に関する事業は

令和7年度から取り組む新規事業としては、「子どもの福祉医療費給付金の窓口無料化事業」、「保育所施設整備事業」、「小規模保育事業所整備事業」、「小学校医療的ケア児支援事業」などがある。詳細につきましては、令和7年度当初予算（案）の概要でお示ししましたとおりであるが、子育て世代が魅力を感じる子ども・子育て支援の推進と教育環境の充実に更に力を入れ、人材（人財）育成に取り組んでいく。

**【大澤洋子議員】**

●戦後80年、二度と戦争をしないために

○平和学習について、どのように考えられているか伺う

①学校での平和教育は

【教育長】

すべての小中学校で、子ども達の発達段階に合わせて教科・特別の教科 道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動の中で、平和に関する学習が行われている。

例として、上山田ホテルが戦時中に東京の肢体不自由児童の疎開を受け入れていたという「あんずの花につつまれて」の絵本も教材として使われている。

また、ある学校では、毎年地域の方をお招きし、戦争体験についてお聞きし、戦争と平和について学んでいる学校もある。

先日は、ウクライナの支援活動をしている坂本龍太郎さんが屋代中学校と東小学校を訪問しました。母校である屋代中学校では、「今、ウクライナの子ども達は」と題した講演会が開かれ、講演を聴いた生徒たちからは、「ウクライナの子ども達のことや支援の現状を知ることができてよかった」、「中学校の先輩が遠い地で活躍していて自分もボランティアしたいと感じた」などの感想が聞かれ、すべてを失い心に大きな傷を負う戦争について自分事として考え、あらためて平和の尊さと戦争のない平和な社会を創ることへの強い願いを持つ機会となったと伺っている。

これから生きる子ども達の世界は、まさにグローバル社会であり、その社会でどう戦争のない世界を創っていくか、どう平和な世界を創っていくか、そのとき自分がどう判断し、どう行動していくかが求められる。

②社会教育での平和学習は

戦禍の報道が絶えない今こそ、しっかりと戦争と平和について学ぶ機会を大事したいと考えている。

毎年、「公民館報ちくま」の8月号において、「語り継ぎたい、わたしの戦争体験」と題して特集を組み、市民の皆様から寄稿いただいた戦争時の体験を掲載し、戦争について考える一つの機会としている。

また、先ほど申しあげた坂本龍太郎氏による講演会の開催や支援活動を広報することで、今、現実に行き始めている戦争体験として、多くの市民の皆様を知っていただいている。

こうした機会を通じて、社会教育として、「戦争が人間の命と暮らしをいかに破壊する非人間的なものであるか」ということを、引き続き、市民の皆様にお伝えしていく。

●「議案第24号 令和7年度千曲市一般会計予算」の組替えを求める動議（令和7年3月14日）

【可決】

【宮下繁明議員】

令和7年度千曲市一般会計予算（案）の教育費に千曲市公共施設個別施設計画で計画されている小学校2校分の耐力度調査費用6,000万円を計上すること

【市長 意思表明】

ただいま、令和7年度一般会計予算（案）に対し、組み替えの動議が可決されました。この議決を真摯に受け止め、遅滞なく対応していく。

なお、今回、ご指摘いただいた両校の耐力度調査につきましては、令和6年度版公共施設個別施設計画において、令和7年度の実施を予定していたものである。しかし、屋代中学校のプールのろ過ポンプ及び総合教育センターの空調設備に不具合が確認されたため、急を要する設備の改修を優先せざるを得なかったこと。また、両校ともすでに耐震補強工事が実施されており、安全性が確保されていることから、限られた収入のなかで総合的に判断して予算調製したものである。なお、耐力度調査とは、学校施設の大規模改修または改築を行う場合、改修または改築のどちらが有効かを判断するために必要な「事前調査」である。また、調査の結果、所要の耐力度に達していないことが判明した場合、その後に実施する改築事業において「当該調査を実施しておくことで補助対象になる可能性があるもの」であり、現状では緊急性は高くないと判断したところである。

今後の対応として、当然財源を考えなければならない。財政に関しては、この議会でも健全性が再三取り上げられ、基金の取り崩しにもご心配いただいているところである。そのなかで、支出の見直し、今後の学校のあり方も含め総合的に検討させていただき、財源を確保したうえで予算化をしていく。

<p><b>【緊急質問】</b>  <b>【柳澤眞由美議員】</b>  市長の意思表示に対して、緊急質問する。</p> <p>市長から組替を求める動議の議決に対して、真摯に受け止め、遅滞なく対応するとあった。</p> <p>①遅滞なくとはどのように対応するのか。</p> <p>②緊急性が高くないと判断した理由は。</p> <p>③財源の確保はどの様に行うか。</p>	<p><b>【市長】</b></p> <p>1点目の遅滞なくとは、できるだけ早くという意味である。令和6年度の決算状況を見極めながら、最短で6月補正を念頭に置いている。</p> <p>2点目の緊急性については、校舎の耐震性については確保されており、雨漏りや壁のひびなどは修繕で対応できると判断しており、耐力度調査とは別の視点になる。</p> <p>3点目の財源の確保については、令和6年度の決算状況を見極めながら対応していく。耐力度調査には補助金などの特定財源が使えないため、一般財源で捻出するようになる。</p>
--	---

生涯学習課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p>一般質問</p> <p><b>【早志圭司議員】</b></p> <p>◆育成会への補助金の削減について</p> <p>先日、地元区の方から、来年度育成会への補助金が削減になると伺った。</p> <p>かねてより、一定の額になるところまで削減の方向であることは伺っていたし、全体的に子どもの数も減少していることも理解できるが、この物価高のなか、仮に前年と同額だったとしても実質減額となるし、ましてやそれが削減となれば育成会の活動に大きな影響を与えると思われる。</p> <p>過去最高額の予算を計上しているなか、ここを削減する理由と「こどもまんなか宣言」との整合性をお示しいただきたい。</p>	<p><b>【小岩教育部長】</b></p> <p>育成会は、地域の方や子ども同士が様々な関わりをもち、次代を担う子どもたちの健やかな成長を願い、市をはじめ、自治会や各種団体等からの補助金や助成金をもとに活動している。</p> <p>市からの補助金は、年度ごとの各地区の世帯数と児童数に応じて算定している。令和4年度には市全体の子どもの数の減少傾向や、コロナ禍の影響によりコロナ禍以前よりも各地区の活動が縮小している状況を踏まえ、補助金の見直しが行われ、令和5年度の補助金より4年間で2割削減、毎年5パーセントずつ補助金を削減している状況でありご理解いただきたい。</p> <p>市では今年度、「こどもまんなか宣言」を踏まえて「千曲市こども計画」を策定している。次代の担い手である子どもたちの健やかな成長のため、家庭・地域・学校等、社会全体で子ども・子育てに取り組むよう、関係機関との連携を強化し、施策を推進していくこととしている。</p> <p>今後についても、各地区の育成会活動を充実したも</p>

のにするため、子ども会育成連絡協議会と連携し、リーダー研修会等の多様な体験・交流活動を通じて、子どもたちが楽しみながら交流し、地域での活動や行事が行えるように支援していく。

スポーツ振興課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【前田きみ子議員】</b>  <b>●国スポ、全障スポを機にユニバーサルで安全な市内に</b>            ・開催にあたっての環境整備について</p> <p>再質問            上山田文化会館もトイレは洋式化されたが、階段は急で使いづらい。稲荷山公民館も車いすで利用するにはドアが反対となっているなどちぐはぐな部分もある。            人によるサポートも重要だが、市内の車いすなどへの環境づくりが遅れている。</p> <p><b>【早志圭司議員】</b>  <b>●「こどもまんなか宣言」とこどもに対する施設との整合性について</b>            ・新戸倉体育館整備にともないグラウンドが使えない期間の対応について</p>	<p><b>【教育長】</b>            今年度、競技団体が中心となりハンドボールとボッチャの全国規模の大会を開催し大会本番を見据えた円滑な運営方法や施設の活用方策について確認と情報交換を行った。            当市を訪れる子供さんから高齢者、障がいのある方々がまた訪れたいと感じてもらえるよう心のこもったおもてなしを提供するため、関係各課・関係団体と連携し、安心して観戦できる環境づくりやボランティアの育成によるサポート作りに取り組んでいく。</p> <p><b>【教育長】</b>            周辺の道路環境などについて、関係団体等と検討しながら整備を進めていきたい。</p> <p><b>【市長】</b>            ユニバーサルな街づくりは、一度には困難なためできる所から進めていく。            今後もユニバーサルの視点で考えていく。</p> <p><b>【教育部長】</b>            総合運動公園の戸倉体育館エリア内の整備を進めていくうえで、今後は利用の制限をお願いすることとなる。            令和7年度は事業者の決定と設計期間であるため、A Bグラウンドはこれまで通り使用できるが、令和8年度からは利用制限することとなる。            新戸倉体育館整備に伴うA Bグラウンドの利用制限について、説明する中でスポーツのできる場所の確保</p>

についてご理解とご協力をいただきながら調整していきたい。

文化課

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【宮下繁明議員】</b> ●上山田文化会館について ①建設から45年になり耐用年数を経過している上山田文化会館の改修計画はどのようになっているか。</p> <p>②地域文化の重要な拠点である上山田文化会館の現状をどのように考えているか。</p> <p><b>【再質問】</b> 公共施設個別施設計画によると、「上山田文化会館は、建築からすでに40年以上経過しており、外</p>	<p><b>【文化創造担当部長】</b> 令和6年度版 千曲市公共施設個別施設計画では、令和7年度は非常用発電機更新工事、ガスヒートポンプ更新工事、令和8年度はエレベーター更新工事实施設計、令和9年度はエレベーター更新工事を実施する計画となっている。</p> <p>しかし、昨日の総務部長の田中議員への答弁のとおり、文化施設の縮減方針の決定を先送りできない時期にきていることから、令和7年度に予定していた事業は見合わせることにした。</p> <p>上山田文化会館は上山田公民館との複合施設であり、地域の文化芸術振興の推進をはじめ、公民館事業や図書館機能の一部として、社会教育のための重要な拠点である。</p> <p>ただし、市内には合併前に建設された文化施設が他に2施設あり、老朽化の進行により、維持管理に大きな財政負担が生じている。少子高齢化による収入減、社会保障費増が見込まれる中、現存するすべての公共施設を維持し続けることは極めて困難であり、機能が重複している文化施設の集約化・複合化を検討するべき時期にきていると考えている。</p> <p>公共施設の統廃合は避けて通れない重要な課題である。来年度は文化課、生涯学習課、財政課により、文化施設のあり方や今後の方向性等について協議を進めていきたいと考えている。</p> <p><b>【副市長】</b> 統廃合は決定していない。 建築費の高騰で改修には多額の費用をかけることとなり、当市の財政状況や人口規模では、今後も文化施設</p>

<p>壁、屋根、設備等の老朽化が進んでいます。ホールトイレの改修をはじめ、エレベーターの更新、特定天井の耐震化、屋根、外壁改修など長寿命化を図るための改修工事等を計画的に進めます」とある。統廃合するとは書いていないがいつだれが決めたのか。</p> <p><b>【再々質問】</b> 区、自治会等への説明について。</p>	<p>3施設を維持することは困難である。そのため、例えば、施設の老朽化が激しいのであれば、もう少し小さなものに建て替えるなど改修費用をかける前にその辺も含め検討していきたい。</p> <p><b>【市長】</b> 今後どうあるべきか内部で検討したうえ、皆様に説明をしていければと考えている。</p>
--	---

歴史文化財センター

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【和田英幸議員】</b> ○屋代小学校旧本館改修事業の全体像について</p> <p>○森將軍塚古墳及び一重山の整備について</p> <p>○屋代小学校旧本館の改修予算は物価高騰分を見込んでいるのか</p>	<p><b>【市長】</b> ○屋代小学校旧本館改修工事の実施設計が2月に完了した。令和7年度予算に180,000千円を計上し、事業に着手する。 工期が12か月を超えることから債務負担行為として後年度負担をお願いした。 工事内容は、床下、壁など外側から見えない構造部分の補強と空調、衛生設備など施設活用時の利便性を高めることとしている。</p> <p>○森將軍塚古墳及び一重山周辺で活動している団体の活動内容は「科野の里歴史公園の環境を考える会」が桜の植樹、「鯉のぼりを揚げる会」が鯉のぼり掲揚、「一重山みらい会議」が屋代城のある一重山の整備や子ども向けのイベントを実施していただいている。 これらの活動は文化財の周知につながり、千曲市の将来像である文化伝承創造都市の実現に寄与するものとする。</p> <p><b>【文化創造担当部長】</b> ○物価高騰分については見込んでいない。債務負担行為をお願いしているが、物価高騰により工事費が限度</p>

<p>○さまざまな事業をしている団体の課題を聞いて進めてほしい</p> <p><b>【前田きみ子議員】</b></p> <p>○重伝建 2025 年の取り組みは</p> <p>○「鍵の手」の買い戻し手順は</p> <p>○信金跡地の防火水槽は</p>	<p>額を超過した場合は改めて債務負担行為の変更をお願いすることとなる。</p> <p>○市と各団体で情報共有しながら文化財の継承に取り組んで行きたい。</p> <p><b>【教育長】</b></p> <p>○令和 7 年度の取り組みは、継続して実施している建造物の修理修景事業のほか、保存計画に掲げた環境整備（管理施設整備、道路美装化等）を実現するために必要となる事業内容、年次計画などをとりまとめることとしている。</p> <p>昨年 5 月に長野市で行われた全国伝統的建造物群保存地区協議会首長サミットに小川市長が出席し、保存、まちづくり、観光等の活用、継承していくための取り組みに関係各課の連携をスピード感をもって進めることができるよう、市長部局に歴史文化財センターを移管する組織改正を行うこととした。</p> <p>令和 7 年度予算としては修理修景の予算計上のみであるが、予算額にとらわれない施策を展開し、着実に前進していく。</p> <p>第 2 期千曲市歴史的風致維持向上計画の策定を行い、重伝建地区を重点区域として設定し、事業計画を立案する。この計画の策定により文化庁のほか、国交省の補助事業も活用することができる。</p> <p>○土地開発公社からの買い戻しは財源として文化庁補助金の活用を予定している。</p> <p>買い戻しの前年度 9 月を目途に事業費、年次計画等を文化庁に提出し、文化庁調査官の現地調査を受ける。補助事業採択された場合は年度末に申請を行うこととなるので、最短で令和 8 年度に予算措置可能となる。</p> <p>○信金跡地は土地開発公社の所有地となっている。買い戻しは国交省の補助事業の活用を予定している。採択されるためには、歴史的風致維持向上計画の重点区域として事業計画を立案する必要があるため、第 2 期</p>
---	--

○松木本陣について

○鍵の手の買い戻しは最短で令和 8 年度となるが、3 年後まで手付かずになってしまうのではないかと。  
信金跡地は国交省の補助金を活用するが、突如防火水槽になって話が違うのではないかと。  
時期的なものについてもうかがう。

歴史的風致維持向上計画の前半で実施したい。

○重伝建の建造物は個人所有の資産であり、市が直接修理を行うことはできない。

修理修景事業の実施にあたっては所有者の自己負担が課題であることは承知している。

「日本遺産 月の都の文化財を育む会」が結成され、日本遺産の構成文化財の保存活用事業を行った実績があるので、民間の力を結集し、自己負担分を調達することも一つの方策と考える。

#### 【文化創造担当部長】

○重伝建の拠点施設、鍵の手は昨年 11 月に先行取得した。信金跡地は平成 30 年度に先行取得している。

令和 5 年 3 月にまちづくりデザインをまとめた際に、防災機能をもった多目的広場として図示しているので、地区の皆さんとは情報共有できていると認識している。

屋代小旧本館は個別施設計画に基づき実施設計を行った。実施設計の翌年度に改修工事に着手することとした。

鍵の手、信金跡地の整備については令和 4 年度末に方向性が出たところである。

買い戻しにあたっては文化庁の補助金を活用するため、最短で令和 8 年度となる。

信金跡地は文化庁の補助メニューでは取得できない。歴史的風致維持向上計画の 1 期計画が令和 7 年度に完了し、8 年度から始まる 2 期計画の中で計画し、事業実施していきたい。

#### 【市長】

○屋代小学校旧本館の整備を引き合いに出して、屋代小旧本館よりも重伝建を優先して事業を進めてはとのことであるが、屋代小学校旧本館は耐震補強していない建物であり、倒壊した場合は文化的な価値が失われてしまうので、基金を使って改修に着手する。

重伝建に関しては 10 年間、何をやっているのか、ペースが遅いと言われていたので、組織を市長部局に

持ってきてスピードアップを図ることとした。

一方で市の財政負担を軽減するため、使える補助金を最大限活用し、市民生活に影響が出ないようにしていく。

蔵し館の耐震改修を行っており、鍵の手の整備には多くの経費がかかるので、バランスを欠いた施策ではない。

**【堀内太一議員】**

○稲荷山重伝建の今後について

**【文化創造担当部長】**

○稲荷山が重伝建に選定されて10年が経過し、保存計画に掲げた事業の内、修理修景事業は進んでいるが、管理施設の整備や環境整備が進まず、賑わいを取り戻していない。

保存計画の目的を実現するため、地域住民とのワークショップ等を重ねて令和5年3月にまちづくりデザインを策定した。

保存計画及びまちづくりデザインを具現化するため、現在策定中の整備計画また、第2期千曲市歴史的風致維持向上計画で重点区域として設定し、市民及び庁内連携をはかり重点的に施策の展開を図る。将来を見据え、建物の保存だけでなく歴史的なまちなみの整備を通じて個性的で魅力あるまちづくりを目指す。

○前田議員への答弁で予算にとらわれない施策を行うとあったが

**【市長】**

○重伝建の修理は個人所有であるので、年度によってばらつきがある。それが多いか少いかは特に意識していない。

鍵の手や蔵し館などの整備もあり市としては重点的に実施していると考えている。

重伝建は保存の段階から活用にシフトしていく。

○鍵の手の整備と活用について

**【文化創造担当部長】**

○鍵の手はまちづくりデザインで拠点施設として整備する方針に基づき、旧米清の土地建物を取得した。

鍵の手は旧米清のほか、もう一人の方が所有している敷地で構成されている。

もう一人の方の敷地の取得については、旧米清の活用、管理方法の具体化を図る中で所有者の意向も確認

<p>○資材の搬入路等として裏の敷地も必要と考えるがいかがか。</p> <p>○旧米清には広い中庭があるが、ここを整備して地元の人が活用することはできるか。</p> <p>○建物修理には時間がかかるが、中庭は草刈をすればすぐに活用できる。重伝建の事業をアピールするために中庭を活用できないか。</p> <p>○修理修景工事の現場を公開して、若い職人の研修の場としてはどうか。</p>	<p>しながら慎重に検討する。</p> <p>○もう一人の方の敷地は約 460 m<sup>2</sup>、3 棟の建物（特定物件）がある。 鍵の手整備にあたって不足する部分があれば、取得も考えていく必要がある。</p> <p>○先行取得した土地は約 1,900 m<sup>2</sup>で、12 棟の建物がある。 中庭も含めて様々な活用方法があるので、今後、活用のあり方、管理の方法は住民の皆さんと検討していく必要がある。</p> <p>○中庭は修理工事に影響を及ぼさなければ先行して活用できる。 活用にあたってはいろいろな方のご意見を伺いながら進めていきたい。</p> <p>○修理中の途中経過を公開できれば良いが、安全が一番であるので、施工業者の判断が重要である。</p>
<p><b>【林慶太郎議員】</b></p> <p>○博物館・文化施設 既存 7 施設の連携について</p> <p>○古墳館で行っている千曲坂城クラブのHSC（部活動の地域移行 歴史科学クラブ）の取り組みがあるが、各施設での情報共有がうまくいっていないと思われるがいかがか。</p>	<p><b>【文化創造担当部長】</b></p> <p>○共通観覧券以外の連携は、イベントや企画展のポスター、チラシを掲示する程度である。 十分な連携がとれていないので、担当職員及び学芸員による情報交換を定期的に行っていく。</p> <p>○各施設の情報共有は重要である。施設の運営は独立しているが、関連施設として連携を進めていきたい。 HSCについては、他の施設で受け入れ可能であれば取り組んでいきたい。</p> <p><b>【教育長】</b></p> <p>○アートまちかどで千曲坂城クラブの美術クラブが連携して活動している。 いろいろな施設があるので、できる範囲で活動を支</p>

<p>○屋代小学校旧本館整備後の活用について</p>	<p>援していきたい。</p> <p><b>【文化創造担当部長】</b></p> <p>○屋代小学校旧本館の保存活用を進める会、屋代小学校との協議、要望をいただく中で、整備後は地域学習や学級活動を行う学校教育の場、地域コミュニティ施設、屋代小学校の歴史を感じる展示スペース等として活用を図っていくこととしている。</p> <p>施設の活用目的が異なるが、既存施設との連携だけでなく、市民、学校との共創による新たな連携や歴史的建造物を活かしたロケ誘致などを行ってまいりたい。</p>
----------------------------	--

第2 学校給食センター

質問者・質問の要旨	答弁の要旨と今後の課題、具体的対応策
<p><b>【前田 きみ子議員】</b></p> <p>●オーガニック給食の推進について</p>	<p><b>【教育長】</b></p> <p>有機野菜は化学肥料や化学農薬を使用していないため、安全であり、環境にも優しいとされており、学校給食において食育の観点からも、積極的に取り入れて参りたいと考えております。</p> <p>しかしながら、現状では市内の生産者が少ないため、学校給食で使用するだけの、安定した供給量が確保できるかなどの課題があります。</p> <p>今後は生産者の方と連携を密にし、生産状況や納品可能な食材の把握に努め、まずは提供可能な第2 学校給食センター管内において定期的を実施し、第1 学校給食センター管内においては、有機野菜の一部使用を含め、条件が整い次第取り組んで参りたいと考えております。</p>